

CIS を使用するときファイル記述子にはどんな制限がありますか。

目次

[概要](#)

[CIS を使用する場合にファイル記述子の制限はどのようなものですか。](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、ファイル記述子の使用はオペレーティングシステム (OS) に依存するため、カーネルによってファイル記述子がどのように維持されるかを説明します。Cisco Information Server (CIS) 要求が処理されると、要求処理中に複数のファイル記述子を開くことが必要な場合があります。したがって、アプリケーションとしての CIS は、ファイル記述子の制限の設定に関する制御のない OS 固有の設定です。

CIS を使用する場合にファイル記述子の制限はどのようなものですか。

Windows でのオープン ファイル記述子の制限に変更を加える場合、これはランタイム ライブラリで処理されるため、Linux 環境の場合よりもやや困難です。ただし、_setmaxstdio メソッドを使用することにより、stdio レベルで許可される同時オープン ファイル数を設定することができます。Windows でのデフォルトの制限は 2048 です。

Linux または AIX では ulimit -n <value> を使用することにより、オープン ファイル記述子の制限を変更できます。

Linux Cent OS のデフォルトの制限は約 16,000 で、AIX 6.1 では 2,000 のみです。

Linux または AIX の場合、この値を無制限に設定することはできません。「オープン ファイルが多すぎる」エラーが表示された場合は、そのエラーの原因となったデータ ポイントおよびクエリについて調査するとよいでしょう。その場合、制限は 1,000 または 2,000 の単位で増加していき、やがて問題が再現しなくなります。

Linux または AIX において、CIS のファイル記述子の使用は、次のコマンドによりモニタ可能です。

```
ps -ef | grep java ( 製品 ID を取得 )
```

```
lsof -p <PID>
```

```
lsof -a -<PID>
```

適切な制限は、一般に微調整を行うことによつてのみ決定できます。

関連情報

- [https://msdn.microsoft.com/en-us/library/6e3b887c\(v=vs.80\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/6e3b887c(v=vs.80).aspx)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)